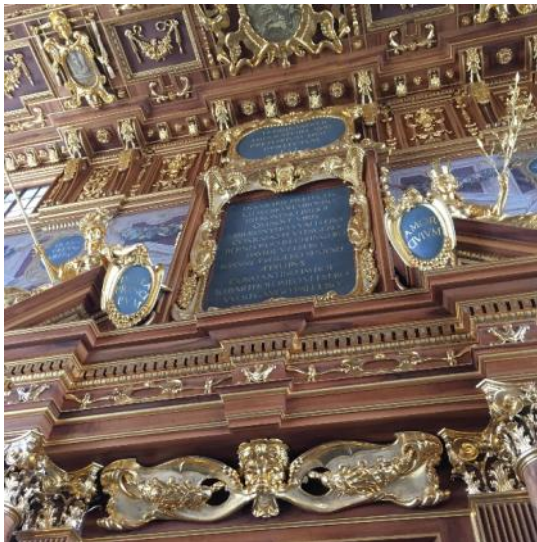


滞在記 豊川勇貴

9 月 11 日

家を出て約 30 時間後にアウクスブルクに到着しました。フライト時間もかなり長く、疲労困憊でしたが、着いたのが朝だったので、そのまま市庁舎で表敬訪問をしました。黄金の間を見たとき、あまりにも荘厳な造りの市庁舎で疲れが吹っ飛びました。その後、レストランで昼食をとり、民族衣装を試着して社員撮影をし、1 時間ほどアウクスブルク市街を探索しました。そしていよいよホストファミリーと対面しましたが、かなり緊張したのを今でも覚えています。



写真：黄金の間

9 月 12 日

活動 2 日目は、バスに乗ってシンデレラ城のモデルとなったといわれているノイシュバンシュタイン城を訪れました。移動途中に静かなレストランで白いソーセージを

プレッツェルと一緒に昼食としていただきました。ノイシュバンシュタイン城の中は、日本語の音声ガイド付きで一人一個ずつモバイルガイド機を受け取り、歴史的背景を学びました。残念ながら内側の撮影は禁止でしたが、信じられないほど豪華に繊細に造られていました。

その後、ヴィース巡礼教会を視察して帰宅しました。



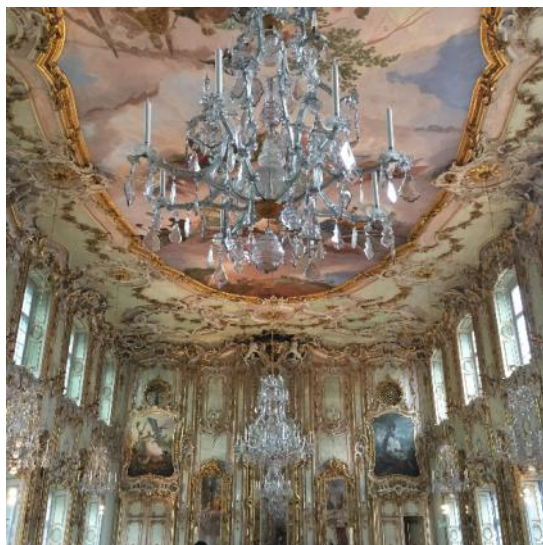
写真：ノイシュバンシュタイン城

9 月 13 日

活動 3 日目のこの日は、朝一でシェッツラー宮殿を視察しました。通訳の方が天井画や壁に描かれている絵画などについて事細かにガイドしてくれました。その後、地元の小学校を視察しました。日本と比べての教育課程の違いに驚いたとともに、100 を超える国と地域から生徒が学びに来ていて、見た目こそかなり違うものの、合唱を披露してくれてとてもいいものを見させてもらっていると感動しました。

イノベーションパークを視察したあと昼食をはさみ、保育所を視察し、ディーゼル記念石庭園を視察しました。夜は使節団とホストファミリー全員で施設を貸し切り、カ

ラオケやケーキ作りをしました。



写真：シェッツラー宮殿

9月14日

活動4日目。午前中、FCアウクスブルクのWWKアリーナを視察しました。普段は入れない屋内の超VIP席や、選手のロッカールーム、記者会見場、グラウンドのベンチまで入ることができました。昼食をとり、テキスタイルミュージアムを視察した後、アウクスブルク大学を視察しました。庭に鳥居があり、遠い地で日本の文化が取り入れられていて感銘を受けました。



写真：WWKアリーナVIP席から

夜は送別会があり、私たちは日本及び尼崎市の紹介として、福笑いをした後、時間をかけて作ったPR動画を放映しました。現地の方がかなり盛り上がってくれ、大満足で終わることができました。

9月15日

活動5日目、この日はホストファミリーとミュンヘンに行きました。4つの教会を巡り、ショッピングモールで買い物をしたりマーケットや露店でお土産を購入したりしました。特に、マリエン広場の新市庁舎で見たからくり時計は、今まで見た建物の中で最も心を動かされました。これが何百年も前に建てられたのだと考えるととても感慨深かったです。



写真：ミュンヘンの街並み

9月16日

活動最終日は、ユネスコ世界遺産申請中の水の塔を視察し、アウクスブルク市の水源について昔の知恵とともに学びました。その後、プッペンキステの人形博物館を視察し、午後は社会福祉施設フッグライを視察しました。条件に合う人は今でも一年間の家賃がたったの0.88€（日本円で約100

円)であるとの話を聞いて驚きました。



写真：フッゲライ

最後に

台風の影響で関西国際空港が封鎖され、一日遅れで東京から出発するという事態となりました。波乱の幕開けとなりましたが、予定が大きく崩れることはなく、スムーズに訪問や視察を行うことができ、関係者の方々には感謝したいなと思いました。

私がこの滞在で得た一番の財産は、ホストファミリーとの出会いでした。私のホストファミリーは社交的で話やすく、すぐに打ち解けることができました。話すうちに、かなりの努力を積み、ドイツ語を母国語に、スペイン語、英語をほぼ習得していて、現在は日本語を習得するために必死に勉強しているとのことでした。その現状を聞いて、私自身ももっと頑張らなければならないと心を揺さぶられ、どんどん新しいことに挑戦するモチベーションアップにつながりました。

この青年使節団での活動を通じて、ドイ

ツの文化だけでなく、観光地を訪れ、ホストファミリーや青年使節団とのつながりが生まれ、普通の旅行では考えられないほどの大きな経験を積むことができました。この経験を将来の活動のつなげていけるように邁進していきたいと思います。

ありがとうございました。